

大阪トヨタLOGI&B-TEC株式会社

2018年度 環境活動レポート

(対象期間：2018年4月1日～2019年3月31日)



【 目 次 】

- P1：表紙
- P2：環境方針
- P3：組織の概要、認証・登録の対象組織・活動
- P4：環境推進委員会組織図
- P5：役割・責任権限
- P6：主な環境負荷の実績、環境目標及びその他の実績
- P7・8：環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組
- P9：環境関連法規等の遵守状況の評価の結果並びに違反、訴訟の有無
- P10：緊急事態対応訓練
- P11：代表者による全体の評価と見直し
- P12・13：環境活動等の紹介

作成日：2019年5月25日

(一部改訂日：2019年9月6日)

大阪トヨタ LOGI&B-TEC 株式会社 環境方針

基本理念

当社は大阪トヨタグループの一員として、安全と環境保全を、経営の最重要課題と位置づけ、自動車整備（新車点検・板金・塗装）、自動車用品取付、輸送業務などの事業活動を通して、地域に安全・安心を提供できる、企業を目指す。

基本方針

1. 事業活動が環境に与える影響を正しく認識し、環境方針を理解し、環境目的・目標を定めて、全従業員で継続的な改善活動に取り組む。
2. 環境に関する法律・規則・条例、並びにその他の要求事項として当社が同意した地域の取決めを、遵守し、環境保全レベルの向上を図る。
3. 事業活動の全ての領域で、省エネルギー・省資源・水使用量の抑制、リサイクル・環境負荷の小さいグリーン購入の促進及び廃棄物の削減に努める。
4. 塗料・シンナーなど、化学物質の管理及び使用削減に取り組む。
5. 電気使用量・ガス使用量の抑制、並びに、エコドライブの促進に努め、CO₂排出量削減を図る。
6. 全従業員への教育により環境意識の高揚を図ると共に、環境保全活動を積極的に推進する。
7. 環境監査を実施して、環境管理の維持向上を図る。
8. 地域社会とのコミュニケーションを大切にし、地域のよりよい環境づくりに貢献する。

※ グリーン購入・・・環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する事

全従業員とは・・・社員、パートナー会社、アルバイト、パート、契約社員などすべての者が対象

代表取締役専務

山田 真己

制 定 2017年 6月26日

□組織の概要

更新日： 2019年5月25日

(1) 名称及び代表者名

大阪トヨタLOGI & B-T E C株式会社

代表取締役専務 山田 真己

(2) 所在地

本社・ラック工場・ロジスティック部：

大阪府 寝屋川市 仁和寺本町3丁目2番38号

寝屋川工場：

大阪府 寝屋川市 葛原新町11-10

平野工場：

大阪府 大阪市 平野区加美西1丁目17-17

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役 藤木 秀一 TEL：072-828-1215

// 執行役員 松永 洋和 TEL：072-828-1215

担当者 経営管理部長 井上 進 TEL：072-828-1215

(4) 事業内容と規模

	新車整備部門 整備部 (ラック工場)	物流・輸送部門 ロジスティック部	ボデー・リペア部門		経営管理部 (本社)	合計
			寝屋川工場 ※1	平野工場		
売 上 高	4,128百万円	578百万円	1,652百万円		－	6,358百万円
従 業 員 数	61名	41名	91名		10名	203名
屋内作業場面積	5,066㎡	－	9,695㎡	3,371㎡	－	－
主 な 事 業 内 容	自動車整備、新車点検、用品取付、特装车製作、カーケア施工	新車・U-C a r・B P各車両配送、社内文書配送、部品配送	車両の板金塗装修理		－	－

※1 寝屋川工場はリニューアル工事（'17年11月から'19年3月）を行い工事中はラック工場内にて業務実施

(5) 事業年度

2018年4月1日～2019年3月31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 大阪トヨタLOGI & B-T E C株式会社

対象事業所：

本社・ラック工場・ロジスティック部

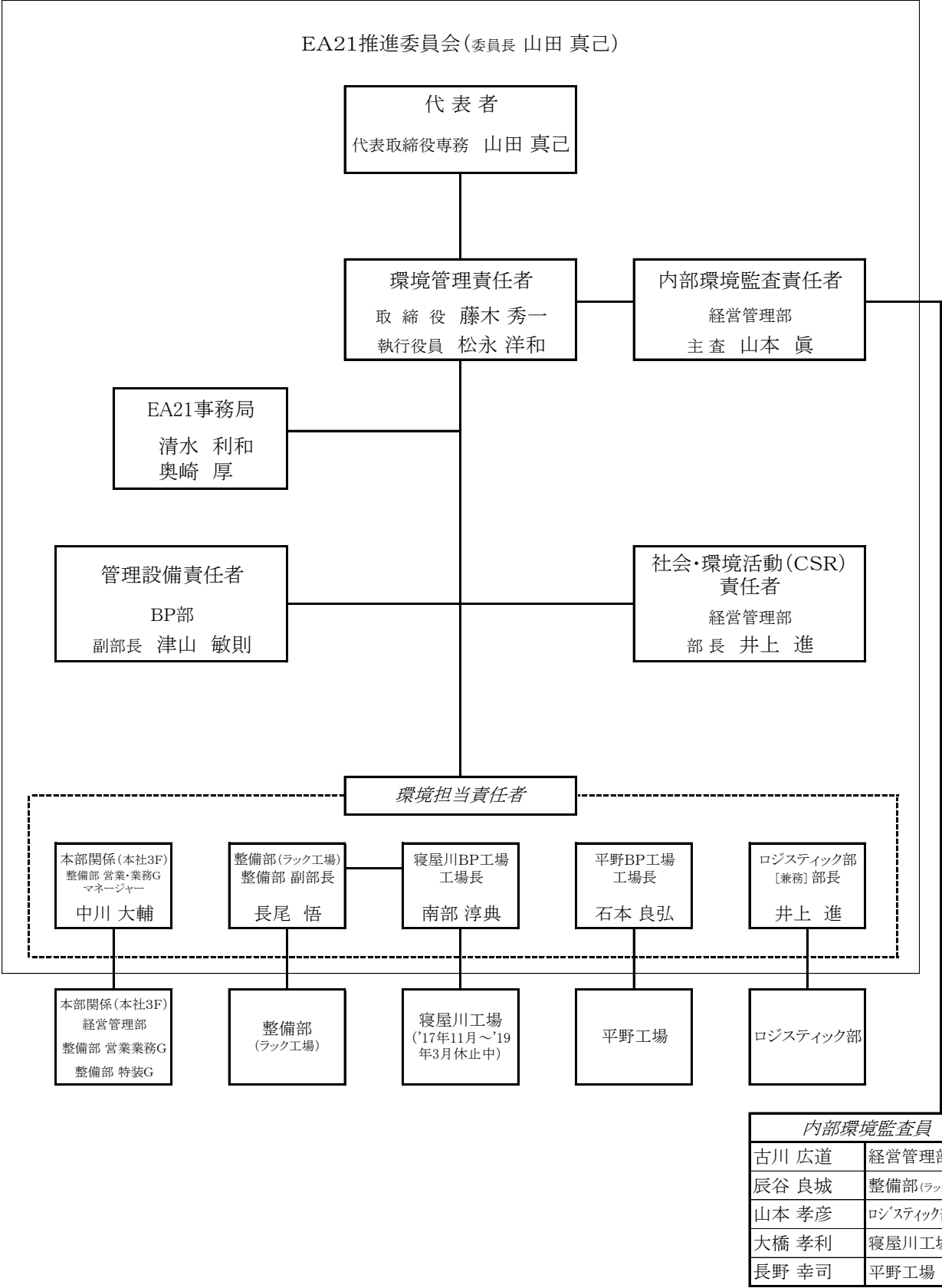
寝屋川工場（'17年11月～'19年3月リニューアル工事）

平野工場

活 動： 自動車整備・板金塗装・車両配送

□実施体制図及び役割・責任・権限表

環境推進委員会組織表



担 当	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代 表 者	1. 環境方針を策定する。 2. EMS実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備する。 3. 環境方針の定期的な見直し。 4. 代表者による全体の評価と見直しを実施する。 5. 環境体制組織及びEA21推進委員会組織の策定をする。 6. 環境管理責任者を任命する。 7. 環境活動レポートを承認する。
環境管理責任者	1. 代表者が環境方針を策定するにあたり助言を行う。 2. 環境活動レポートの確認をする。 3. 本環境マニュアルと関連文書に定める環境管理責任者の承認事項に関わる承認を行う。 4. 担当部門の各環境担当責任者を管理監督する。
社会・環境活動（CSR） 責任者	1. 発生事案を、環境担当責任者から報告を受け、助言を行い速やかに環境管理責任者に報告、指示を仰ぐ。
管理設備責任者	2. 本環境マニュアルと関連文書に定める社会・環境活動（CSR）責任者、管理設備責任者の承認事項に関わる承認を行う。
環境担当責任者	1. 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックを行い、これらを基に環境目標及び環境活動計画を策定し、事務局経由で環境管理責任者へ提出する。 2. 自部門に関する環境活動計画の進捗状況を管理する。 3. 本環境マニュアルと関連文書に定める環境担当責任者としての役割、責任及び権限を行使する。 4. 日常の事業活動の中で環境対応に関する事項の運用、管理をする、並びにEMSの実績を事務局に提供する。
EA21推進委員会	1. EA21推進委員会は、原則4月、10月に開催する。 2. EA21推進委員会の開催は委員長または、環境管理責任者が招集する。 3. EA21推進委員会では、当社におけるEMSの構築、運用状況についての報告と審議並びに環境情報に関するコミュニケーションを行う。
EA21事務局	1. 環境管理責任者及び環境担当責任者にEMS見直しのための、情報の提供、及び円滑なEMSの構築と運用を図るため、サポートを行う。 2. EA21推進委員会の事務局 3. EMSの構築とその運用。 4. 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）。 5. 環境活動レポートの作成に必要な、データ、情報などを、各部から提供を受けまとめる。 6. 本環境マニュアルと関連文書に定める事務局の役割の行使および運営を行う。
内部環境監査責任者 （内部環境監査チーム 各部1名任命、計5名）	1. 内部監査責任者は環境に関する内部監査の計画を5月に行う。 2. 環境に関する内部監査の実施・報告を6月または7月に行う。 3. 内部監査の結果に基づき改善項目の進捗状況を確認する。
全従業員	1. 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 2. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2015年	2016年	2017年	2018年度 環境活動 レポート
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,679,765	1,634,202	1,553,504	1,138,656
廃棄物排出量	kg	356,321	360,846	410,515	440,418
一般廃棄物排出量	kg	181,486	163,615	141,867	75,855
産業廃棄物排出量	kg	174,835	197,231	268,648	364,563
総排水量	m ³	10,141	10,131	9,448	8,856

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.334 kg-CO₂/kWh

□環境目標及びその実績

年 度		2015年度 (基準年度)	2016年度	2017年度	2018年度環境レポート		2019年度 (目標)
項 目					(目標)	(実績)	
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂ 基準年比	1,033,545 2015年	1,032,100 100%	1,001,545 97%	1,002,538 97%	564,681 55%	325,000
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂ 基準年比	147,737 2015年	133,450 90%	171,638 116%	225,236 -	189,557 84%	89,100
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO ₂ 基準年比	96,288 2015年	85,358 90%	40,256 42%	LPG廃止	-	-
自動車燃料（ガソリン）による二酸化炭素削減	kg-CO ₂ 基準年比	34,488 2015年	34,174 99%	28,417 82%	33,454 97%	31,801 92%	22,000
自動車燃料（軽油）による二酸化炭素削減	kg-CO ₂ 基準年比	367,707 2015年	349,121 99%	311,648 85%	356,676 97%	352,617 96%	353,000
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	1,679,765	1,634,202	1,553,504	1,617,903	1,138,656	789,100
一般廃棄物の削減 基準変更16,335kg	kg 基準年比	118,567 2015年	91,291 77%	71,993 61%	15,845 -	15,876 100%	11,000
廃プラの削減 基準変更300,150kg	kg 基準年比	90,195 2015年	102,547 114%	193,577 215%	291,145 -	285,718 98%	215,000
段ボール・紙類の削減	kg 基準年比	7,228 2015年	8,014 111%	8,490 117%	7,011 97%	7,889 109%	0
廃金属の削減	kg 基準年比	78,810 2015年	69,947 89%	72,130 92%	76,446 97%	37,479 48%	0
水道水の削減	m ³ 基準年比	10,141 2015年	10,131 100%	9,448 93%	9,837 97%	8,856 87%	7,000
シンナー・塗料の使用 量削減	kg 基準年比	33,728 2015年	34,329 102%	31,869 94%	30,355 90%	31,565 94%	3,700
製品・サービスへの環 境配慮	台 基準年比	13,553 2015年	15,039 111%	13,936 103%	15,289 113%	13,696 101%	13,700

※2017年10月寝屋川工場建替え工事に伴いLPG使用廃止になり、2018年度都市ガス目標値の基準年度比見直し（都市ガス使用量増加分を計算して係数を設定 1.62倍で目標値を変更しました。）

※2017年11月ラック工場の事務系一般ゴミと廃プラ分別見直しにより、2018年度目標値の基準年度比見直し（分別見直し後の排出量を計算して係数を設定、一廃0.142倍、廃プラ3.43倍で目標値を変更しました。）

※2019年度目標は、B P業務を大阪トヨタ自動車株式会社へ譲渡した為、寝屋川工場・平野工場を除いた数値。また、有価での品目は目標値を見直すと共に、全項目を基準年度として試みる

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

活 動：○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】
・空調温度の適正化 (冷房28℃ 暖房20℃)	△	新車作業工程を見直し、特に自動車保管倉庫への車両の入出庫回数を削減
・不要照明の消灯	○	
・ノー残業デーの実施	△	【次年度の取組】
・空気圧縮機のエア洩れ点検	○	新車整備部門：新車作業ストール数の見直しと2直体制等のライン工程の見直しと作業進捗管理強化
・作業改善・業務改善の推進 (部門別活動計画で運用)	○	
・作業動線短縮ラック入出庫回数減	○	
都市ガスによる二酸化炭素削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】
・塗装ブースの点検、整備	○	L Pガス使用の塗装ブース廃止や作業ミス等による再塗装防止に向けたペインターの技術力向上
・再塗装の低減	○	
		【次年度の取組】
		新車整備部門：塗装ブース等機器の点検整備による性能の維持とペインターの技術力を維持
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】
・アイドリングストップ	○	車両配送システム導入による車両完成状況の把握と配送順位の見直し等により積載車配送効率向上
・効率的なルートで配送	○	
・配送システムによる効率化	○	
		【次年度の取組】
		物流輸送部門：配送システムを利用した積載車配送効率向上の継続と積載車の順次代替え実施
一般廃棄物の削減		
数値目標	△	【取組結果と評価】
・分別の徹底	△	ファックスや紙での作業指示を見直し、紙総量減と廃紙の分別を徹底
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・5 S活動の推進（各部門で運用）	○	
		【次年度の取組】
		現状取組の継続と会議体資料や作業指示のペーパーレス化実施
廃プラの削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】
・分別の徹底	○	車両の廃棄シートをプラと金属に完全分別し処分 トヨタ製廃バンパーは、再生利用できるよう分別廃棄の実施
		【次年度の取組】
		現状取組の継続

<次頁続く>

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
段ボール・紙類の削減		
数値目標	×	【取組結果と評価】
リサイクルへの取組		
・段ボール、作業指示用紙 など	△	これまで同様にリサイクルにむけた分別廃棄の実施を行うも、新車整備台数が増加(前年比108%)し部品梱包の廃棄段ボールが増加。
		【次年度の取組】
		現状取組の継続は継続も、有価での引取りの為項目を外す
廃金属の削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】
リサイクルへの取組		
・すべての廃金属を有価、リサイクル実施	○	廃金属100%リサイクル実施(廃金属量:25,372kg)
		【次年度の取組】
		現状取組の継続は継続も、有価での引取りの為項目を外す
水道水使用の削減		
数値目標	○	【取組結果と評価】
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
		これまでの構内の節水啓蒙活動継続と門型洗車機を使用した洗車からスチームを使用した洗車方法に変更し使用量の削減を図る
		【次年度の取組】
		現状取組の継続
シンナー・塗料の使用量削減		
数値目標	×	【取組結果と評価】
・有害物質の表示の徹底	○	
・容器の蓋の徹底	○	洗浄用シンナー等は有害物が少ない新製品に切替えを実施するも台風被害をうけた全塗装修理車両の増により塗料の使用量は増加
		【次年度の取組】
		現状取組の継続
製品・サービスへの環境配慮		
数値目標	△	【取組結果と評価】
・水性塗料作業増によるP R T R物質の削減	△	
・H V・P H V車両紹介	×	4月からの水性塗装への移行に伴い技術練習実施、パテについてはP R T Rの少ない材料に変更
・新車／ボデーコート	○	当社が取り扱うボデーコーティングやガラスフィルムを推販し、ユーザーのエコなカーライフをサポート
・新車／ガラスフィルム	×	
・既販車／ボデーコート	○	【次年度の取組】
・既販車／ガラスフィルム	○	
		現状取組の継続と各店舗での拡販イベント企画立案
社会貢献		
活動実績	○	【取組結果と評価】
・事業場周辺道路の清掃	○	
・ペットボトルキャップ回収・寄付	○	社会貢献活動に参加[P12・13「環境活動等の紹介」参照] (屋外での作業では事故ケガに十分に気をつけ活動する)
・河川敷の清掃活動参加(大阪府・寝屋川市)	○	
・献血活動	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	空気圧縮機、送風機
消防法（危険物）	危険物庫、少量危険物庫、泡消化液（P F O S）
消防法（設備）	消防設備、自家給油所
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機、エアドライヤー、ウォータークーラー、スポットクーラー
労働安全衛生法	有機溶剤作業、粉塵作業、騒音作業、砥石交換、クレーン運転、フォークリフト運転、溶接作業、電動ウインチ操作、乾燥設備、健康診断、塗装作業場環境測定
P R T R 法	塗料・シンナー・溶剤等化学物質の取扱量
労働基準法	従業員の雇用、就業規則
省エネ法	建物、設備の改修・建替え
水質汚濁防止法	洗車機、洗車場、油水分離槽、排水水質検査
N O x ・ P M 法	排ガス基準適合車の使用
道路運送車両法	整備工場

▽ 環境関連法規制等の遵守状況評価の結果、環境関連法規制等は遵守されています。なお、違反、訴訟等は過去３年間（あるいはこれまで）ありません。

▽ ２０１７年１１月から始まった寝屋川ＢＰ工場リニューアル工事は、２０１９年３月に工事を終え完成を迎えました。新工場立ち上げを機にサービス部門の一元化による生産性向上を図るため、ＢＰ事業は大阪トヨタ自動車へ譲渡致しましたので、４月以降は「塗料・シンナー」等化学物質の取り扱い量は大幅に減少する事となります。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定：1階部品倉庫から火災発生

■実施日：2018年12月10日（月）

■実施場所：ハローラック（本社）

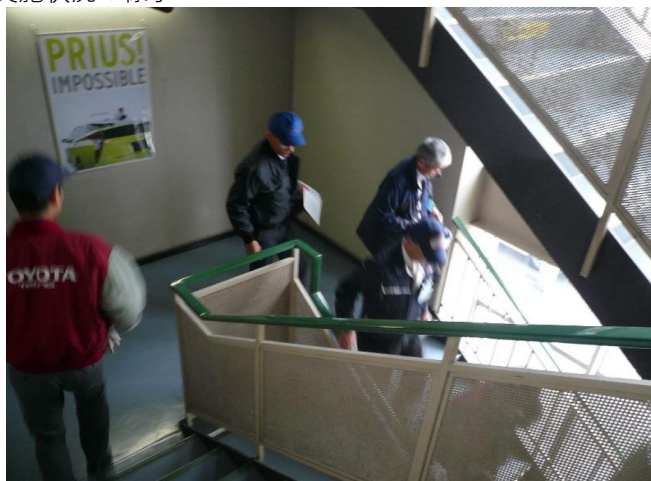
■参加者：180人

■実施内容：総合訓練（通報、消火、避難）

■評価：
「○」

火災発生から、集合場所までの迅速な動きで点呼が完了した（火災発生から点呼終了まで約7分）

■実施状況の様子



緊急事態の想定：1階東エレベータ前仕上げ場付近から火災発生

■実施日：2019年1月15日（火）

■実施場所：平野工場

■参加者：55人

■実施内容：総合訓練（通報、消火、避難）

■評価：
「○」

誘導班の適切な誘導で、昨年同様火災発生から約8分で避難場所へ集合する

□代表者による全体の評価と見直し

実施日：2019年5月25日

管理責任者の報告及び改善への提案	代表者のコメント												
[環境指標の達成状況] 【二酸化炭素排出量（CO2）】 2018年度 実績：1,501,719kg-CO2（前年比：96%） → 電気・ガス・自動車燃料等のCO2削減取組の総合値 → 新車完成台数は増になったもののB P 生産(完成)台数が前年比85%の影響有り。引き続き自動車保管倉庫からの車両の出入れ回数減取組みや、高効率な配送計画の実施を行う	変更の必要性： ☒ 有り ☐ 無し 二酸化炭素排出、化学物質排出量において、電気・ガスの削減取組みは、各部署が意識を持って実施する。 今後については、B P 部門除きの目標を設定し、その後実数字を基準年度とし削減を図る。また新車整備部門では「ひと筆書き工程」を目指したライン工程の見直しや作業指示でのペーパーレス化と配送も含めさらにムダを省く。												
[環境取組の達成度と課題、今後の活動予定] 【化学物質使用量削減】 水性塗料生産台数 2018年度 実績：1,269台（前年比：254%） → 各ペインター技術習得においては各ペイントメーカーの講習などで向上が図られ、新B P 工場では100%水性塗料生産で実施	変更の必要性： ☒ 有り ☐ 無し 新B P 工場立ち上げの4月を目標に、100%水性塗装の変更に向け技術力習得と設備面での投資を行った。今後も、ラック工場内の塗装についても環境に優しい材料への変更や、寝屋川工場（B P）との連携で塗装負荷の低減を図る												
[法規制の変更と遵守状況] 法令順守評価に基づき、毎月怠りなく実施又外部検査機関による環境測定、水質検査を実施、各項目問題なく基準をクリアしました。 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>法令遵守確認</th><th>結果</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月・11月塗装作業場の環境測定実施</td><td>○</td></tr> <tr> <td>10月 工場排水水質測定実施</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	法令遵守確認	結果	5月・11月塗装作業場の環境測定実施	○	10月 工場排水水質測定実施	○	変更の必要性： ☒ 有り ☐ 無し 法令関係・条例の改正や、その他の要求事項対応を迅速に行い、各部署へ横展を確実に実施すること。また近隣住人へは「安心・安全」して頂くために、社員一人ひとりが日々の業務を安全で丁寧な遂行すること。						
法令遵守確認	結果												
5月・11月塗装作業場の環境測定実施	○												
10月 工場排水水質測定実施	○												
[内部監査の結果と是正状況] 【内部環境監査結果（B P 部門除く）】 ▽ 実施日：2018年7月13・14日 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th><th>重大な不適合</th><th>軽微な不適合</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>整備部門</td><td>1件</td><td>無し</td></tr> <tr> <td>ロジ部門</td><td>1件</td><td>3件</td></tr> <tr> <td>本社関係（3F事務所）</td><td>無し</td><td>無し</td></tr> </tbody> </table> ▽ 各部からの是正報告有り		重大な不適合	軽微な不適合	整備部門	1件	無し	ロジ部門	1件	3件	本社関係（3F事務所）	無し	無し	変更の必要性： ☒ 有り ☐ 無し 各環境担当責任者は法令や取り決め事項を遵守し、チェック体制を徹底すること。指摘事項への対応と是正の有効性と定着状況を確認継続すること。
	重大な不適合	軽微な不適合											
整備部門	1件	無し											
ロジ部門	1件	3件											
本社関係（3F事務所）	無し	無し											
[外部からの苦情と対応] 苦情等の連絡は無し。また工場からの騒音異臭などは定期的にチェックしており問題無く、隔月近隣訪問活動でも苦情はなかった。	変更の必要性： ☒ 有り ☐ 無し 近隣住民への自宅訪問活動を通じてコミュニケーション継続を図り、ご意見は真摯に受け止め対応に努めること。												
[総括] ▽ 各部門での働き方変革と業務カイゼン活動の継続。 ▽ エコアクション21推進活動継続に加え、従業員が一丸となって取り組めるよう活動の横展開強化													

□環境活動等の紹介

▽ 事業場周辺道路の清掃（月2回以上）

毎月2回以上、各事業場周辺の道路を清掃しています。
特に、本社ハローラックでは工場ラインオフの平成10年から毎月欠かすことなく、清掃活動を実施しております。
（右写真：ラック工場前道路清掃）



▽ エコキャップ運動を展開中



エコキャップ運動に取り組んでいます。
毎年、年間約1万個以上を集めております。社内の各自動販売機横に手づくりの「キャップ入れ箱（ポスター掲示）」を置いて取り組んでおります。

▽ 団体献血実施（実施日：2018年8月29日）



団体献血をラック工場で実施しました。今回の参加人数は、39人でした。

▽ クリーンリバー寝屋川作戦・秋（活動日：2018年11月11日）



▽ 淀川河川敷の清掃活動（活動日：2019年2月17日）

